

環境科学概論		講義	非常勤講師 新井 健司	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科 の教養選択科目	科目ナンバリング	22200117	

1. 授業のねらい・概要

今日、環境問題が報道されない日はないと言ってもよいほど、私たちの周辺には「環境」の話題が溢れている。特に近年複雑化かつ多様化を強める地球環境問題は、原因や発生のメカニズムの解明から対策まで多くの困難を抱えている。

この授業では、さまざまな環境問題の歴史と現状および対策について解説する。深刻な環境破壊の実態と改善の重要性を認識し、地球環境を良好な状態で子孫に伝えるために必要なことを考える契機としたい。

2. 授業の進め方

対面式を予定しているが、コロナの感染状況により遠隔式（オンデマンド型音声解説方式）に変更する場合もある。

3. 授業計画

1. 環境問題、宇宙のごみ問題 2. オゾン層の破壊 3. 地球温暖化（1）（歴史と原因） 4. 地球温暖化（2）（影響と対策） 5. 地球温暖化と異常気象 6. 大気汚染の歴史 7. 大気汚染物質 8. 水質汚濁	9. 海洋汚染 10. 森林の減少 11. 砂漠化、野生生物の減少 12. 資源とエネルギー問題 13. 原発事故と放射能汚染 14. 開発と災害 15. 地球環境の保全に向けて
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回のテーマについて、書籍・科学雑誌などで予備知識を持っておくと理解しやすい（約1時間）。テレビ・新聞等の関係報道にも注意するようにしてもらいたい。遠隔式の場合は、毎回授業の後で理解度を確認するための小テストを出す。次の授業の初めの正解の発表と解説を見て、各自で見直す（約30分）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

第15回（最終回）の授業後に、期末試験を実施する。遠隔式の場合、小テストの解答および期末試験の解答はメールで提出してもらおう。小テストの不正解者には、再提出を指示するメールを送る。

6. 授業における学修の到達目標

環境問題として、今どのようなことが問題になっているのか、過去の経験を活かしてどのような対策を立てればよいのかなどの課題について、受講生自身が考察できる力を身に付けることを目標にする。

7. 成績評価の方法・基準

試験（50%）、受講態度（20%）、小テスト（30%）をもとに、成績評価を行う。

8. テキスト・参考文献

テキストは指定しない。

9. 受講上の留意事項

授業内容をよく理解した上で、試験・テストを受験すること。遠隔式の場合、解答の提出期限は必ず守ってもらいたい。やむを得ない理由で解答提出が遅れる場合は、必ずメールで連絡すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。